



新 郡市医師会長 インタビュー

第3回 下松医師会長 山下 弘巳 先生

と き 令和3年7月17日(土)

ところ (医) 社団山下脳神経外科クリニック

[聴き手：広報委員 岸本 千種]



岸本委員 令和2年5月15日から下松医師会長になりました山下弘巳先生にお話をお伺いします。ご就任以来、通常の会長業務に加えて、新型コロナウイルス感染症対策等で大変な1年だったと思います。

山下会長 ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症問題等に直面している今、まさに下松医師会の存在意義が問われる時だと思っています。私は宮本前会長の下、4年間副会長として仕事をさせていただきました。前会長の強力なリーダーシップと求心力を引き継ぎたいところです。

岸本委員 下松医師会のご紹介をお願いいたします。

山下会長 下松医師会は昭和14年11月、下松市が市政を施行した年に発足しました。当初は僅か14名の会員数でしたが、約80年を経て会員数87名を数える迄に発展しました。毎年のように新規開業、あるいは病院・医院継承をされた先生の入会があり、会員数は着実に増加しています。ご存知かもしれませんが、下松市は毎年「住みよい街ランキング」の上位にランクインしており、人口が現在も増加している数少ない自治体の一つです。特に、働き盛りの住民が増加していること

が新規開業が増えている要因の一つではないかとも考えています。

岸本委員 山下先生は周南記念病院でもご活躍でしたが、もともと九州のご出身ですね。

山下会長 私は福岡県飯塚市の出身で、いわゆる「川筋」育ちです。昭和58年に長崎大学を卒業し、母校の脳神経外科学教室に入局しました。昭和59年に山口県立中央病院(現山口県立総合医療センター)の脳神経外科で研修医としてお世話になったのが、山口県との縁の始まりです。そのころは防府より東に足を延ばした事はなく、恥ずかしながら下松市の存在も知りませんでした。1年で長崎に戻り、4年後に結婚した配偶者は山口県人です。当時の活気に満ちた徳山の町を散策した事を、今もおぼろげながら記憶しています。平成12年6月から、周南記念病院に赴任しましたが、この時ようやく下松市にたどり着きました。新設された脳神経外科を如何に運営すべきかを日々悩んでいましたが、下松医師会の先生方より叱咤激励をいただき、4年間何とか大過なく勤務することができました。

岸本委員 新しく脳神経外科を軌道に乗せるのには、大変なご苦勞があったかと思いますが、やり

がいも達成感も大きい貴重な業績と拝察します。その後、長崎に転勤されました。

山下会長 周南記念病院在職中は、無我夢中で仕事をしておりましたが、平成16年4月に長崎労災病院勤務を命ぜられ、下松の地を離れました。しかし、住み心地の良さと温かい人柄が忘れられず、舞い戻ってまいりました。長崎労災病院のある佐世保市は軍港の街として知られておりますが、隣接した北松地域は、かつての産炭地域でした。その名残が残っており、生まれ故郷に戻ったような一種の懐かしさを感じましたが、2年、3年と経つうちに周南地域のおおらかさが恋しくなり、「50歳にもなって無謀だ」という周囲の声を振り切って平成20年9月に脳神経外科診療所を下松市に開業しました。当時の下松医師会の会長は河野先生でしたが、河野先生からお祝いにといただいた、フクロウの彫刻がある印鑑入れは大変趣のある品物で、今も大切に使っています。

岸本委員 12年間も使われているんですね。すばらしいです。今、地域医療に貢献するためには医師会と行政とのタイアップ、協力も必要ですね。特に、昨年からは新型コロナウイルス感染症の問題に対応するために、より一層の協力体制が望まれていたと思います。

山下会長 新型コロナウイルスワクチンの接種に関しては、下松市と連携して集団接種及び個別接種を平行して行ってきました。集団接種に関しては、下松医師会のほとんどの先生方にご協力いただき、順調に接種が進んでいるところです。個別接種に関しては、約半数の診療所の先生にご協力いただき、現在は64歳以下の接種希望者にも接種をすすめているところです。

岸本委員 ここで、山下先生のご趣味や座右の銘について、お伺いしてもよろしいでしょうか。

山下会長 年を取ってきますと、趣味も少しずつ変遷していきます。若いころと言っても今から10年ほど前までは、魚釣り、特に磯釣りが趣味

でした。学生時代を長崎県で過ごした影響もあるかと思いますが、魚釣りに男女群島という五島列島の南西、約100kmにある絶海の孤島に3～4時間かけて瀬渡し船に乗って釣りに行っておりました。

岸本委員 波は荒いのではないですか。船に酔ったりしませんか。

山下会長 海が時化していると、船は出航しません。行きはよいのですが、帰りは天候が急変することもあるので、怖い目に遭ったこともあります。

岸本委員 それは男同士で行くんですか。

山下会長 そうです。1人では危ないです。2泊3日で行きまして、夜は岩の上に寝袋で寝ます。

岸本委員 波にさらわれそうですね。

山下会長 安全なところで寝ます。冬場に行きますが、長崎方面では「クロ」、こちらでは「グレ」と呼ばれる魚を釣りに行きました。上手な人はたくさん釣れます。しかし、私のようなへボ釣り師にはなかなか、かかってくれませんが、たまに大きなのを釣ったことがあります。磯釣りは危険を伴うものでして、家族も心配してましたし、10年ほど前から止めまして、最近はゴルフばかりやっております。下手です、ゴルフも。

岸本委員 歩くから健康によさそうですね。下松医師会の皆様はよく行かれますよね。

山下会長 確かに健康にはいいと思います。しかし、私は下手ですから人の2倍くらい歩きますので、結構疲れます。

岸本委員 結構ご年配の先生も行かれますね。

山下会長 皆様、お上手です。学生時代は剣道に打ち込んでおりました。中学、高校、大学と剣道部に所属しており、現在は5段です。最近は全

くやっておりますが、剣道の免許は運転免許と違って返納制度はありませんので、今も5段のままです。座右の銘ということですが、座右の銘というよりも、好きな言葉は2つあります。1つは脳神経外科医として手術を行っていたころに、月並みですが「鬼手菩薩心」を心掛けていました。今は手術をする機会がありませんので、「菩薩心」のみでしょうか。もう1つは、高校時代の剣道部の恩師の言葉で「泣くな、負けるな、嘘つくな」です。学生時代、剣道の試合では、大事な所でよく負けていましたし、歳をとってくると涙もろくなっています。なかなか実践できませんが、嘘だけはつくまいと心に留めております。

岸本委員 昨年、下松医師会の主催で周南医学会が開かれる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のこともあり1年間延期になってしまいました。現在の進捗状況はいかがでしょう。

山下会長 本来ならば次の開催医師会に開催担当をお渡しするべきところですが、各医師会の先生方のご理解を賜り、今年度も下松医師会で担当させていただくことになりました。当初はWeb学会あるいはハイブリッド形式での開催を模索しておりましたが、周南医学会の規模を考えますと現地開催が現実的ではないかと判断いたしました。予定では11月28日に下松市で開催することにしており、新型コロナウイルス感染症の終息を切に期待しているところです。現時点では、特別講演を山口大学呼吸器・感染症内科の松永和人教授にお願いしています。ご講演のテーマは「治せる咳嗽、喘息、息切れ」です。最新の知見についてご講演いただけることと思いますので、多数のご参加を期待しております。

岸本委員 1年延びましたが、今年はなんとか開催できそうで嬉しいです。先ほど少しお話が出ましたが、先生はWeb学会はどうお考えですか。

山下会長 昨年度と今年度、Web学会で脳神経外科学会に参加しました。いつでもどこでも視聴できるのは非常に便利な方法かと思いますが、アナログ人間の私にとっては、学会に参加しているという実感がなかなか湧きませんでした。また、私にとっての学会への参加目的の1つは旧知の人たちと再会し、開催地の盛り場で名物料理やおいしい地酒を堪能することですので、これができない学会はなんとも味気ないものです。歳を取ると共に衰えた学会への参加意欲がますます削がれてしまいます。デジタル化時代に逆行するのは承知しておりますが、新型コロナウイルス感染症が終息した暁には、従来どおりの現地参加型の学会形式に戻ってほしいと思います。

岸本委員 ありがとうございます。私どもも下松医師会会員として周南医学会の開催にご協力いたしますので、よろしく願いいたします。山下先生、今日はたいへん興味深い、奥深い話を聞かせていただきありがとうございます。

[あしがき]

前例のない事態が次々と起こる時に、会長として会員をまとめ、行政との連携も保ちながら、平時と変わらない笑顔で、飄々とした落ち着きを保っておられる。男女群島の岩上での修行の賜物かと考えながら、山下脳神経外科クリニックを後にした。



変わりゆく未来を、変えてゆく。

何もしなくても、時と共に未来は変わってゆく。
どうせ変わる未来なら、受け身の未来より、
前に進もうとする未来がいい。
変わろうとするエネルギーが、
きっと未来を輝かせるはずだから。

 **山口銀行**
Yamaguchi Financial Group **YAMAGUCHI BANK**